

Miaz-motte

名古屋J Cがつくる広報誌 マズモッテ

VOL.2

2024.12.25



JUNIOR
CHAMBER
INTERNATIONAL
NAGOYA
2024



JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL NAGOYA 2024 (第74年度) 例会

1月例会 新年賀詞交歓会

1月10日(水)に名古屋観光ホテルにて、1月例会新年賀詞交歓会が開催されました。本例会は名古屋青年会議所の内外に第74年度の運動方針を発信し、会員とパートナーの想いを一つにする、ということを目的として開催されました。当日は、520名を超える方にご参加いただき、名古屋市長の河村様、愛知県知事の大村様、中部経済産業局局長の寺村様からご祝辞をいただきました。式典では安井理事長の所信表明が行われ、安井理事長からは我々の運動を通じて希望を抱き挑戦する人であられる名古屋になるよう、全会員の力を結集し、1年間尽力していくという力強い発信が行われました。また、基本方針に基づいた第74年度のスローガンが発表されました。スローガンは『私たちがだからできること 名古屋に灯そう「希望の光」』に決定しました。第74年度の運動方針を伝えるという最大の目的について、達成された例会となりました。



2月例会 Let's enjoy sports～スポーツで国際の輪を広げよう～

2月19日(月)、Niterra日本特殊陶業市民会館ビレッジホールにて2月例会「Let's enjoy sports～スポーツで国際の輪を広げよう～」が開催されました。本例会は2026年に開催される、第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会という国際スポーツ交流を目前にして、国際交流への苦手意識を減らし、異文化への寛容性を高めるきっかけをつくりたいという思いで開催させていただきました。当日は、メジャーリーガーとして活躍された松坂大輔氏やスタジアムDJなどで活躍中のYO!YO!YOSUKE氏を交え、スポーツを通じた国際交流がもつ素晴らしさや可能性について、お伝えさせていただきました。本例会を通じて、アンケート結果では多くの方に共感、賛同をいただける結果になりました。多くの方にスポーツは文化や国境を超える力を持ち、国際交流を促進する貴重な手段であることを認識していただけました。また本例会をきっかけにアジア競技大会の愛知名古屋合同準備会とつながりをもつことができました。



3月例会 モビリティ社会を探求する例会～安心安全で快適な移動を手に入れよう～

3月16日(土)、レゴランド®・ジャパンを舞台に3月例会「モビリティ社会を探求する例会～安心安全で快適な移動を手に入れよう～」を開催しました。本例会は、誰もが多様な移動手段を選択できるようなモビリティ社会を名古屋のまちで実現すべく、モビリティ社会についての重要性や利便性を周知すると共にモビリティの体験を通して、より多くの市民にモビリティ社会の実現化についての興味・関心をもってもらうことを目的としました。会場がレゴランド®・ジャパンということもあり、多くの皆様に足を運んでいただき、体験型の例会として新しい例会の形になったのではないかと考えます。当日は最新のモビリティのパレードや展示、試乗会や体験会を行い、参加者に実際に最新のモビリティを見て、触れて、体験する機会を提供し、多くの皆様にモビリティ社会の実現についての興味・関心をもってもらえました。



4月例会 ～GO! GLOBAL! 新たな挑戦を志そう～

4月16日(火)、名古屋市公会堂にて4月例会『GO! GLOBAL! 新たな挑戦を志そう』を開催させていただきました。本例会は、中小企業の経営者の高齢化や産業構造の変革に伴う時代に沿ったサービスの提供の遅れといった社会課題に対して、中小企業経営者が新たなアイデアや柔軟な発想をもつスタートアップを理解し、自らもグローバルな視座をもつアントレプレナーとなる意識を醸成させることを目的としました。例会の講師として、企業経営のフロントランナーとして活躍されている講師に加え、起業家精神の育成やグローバルな事業の立ち上げについて実体験としてのお話をしていただける方々をお招きしました。5名のゲストから、世の中には多くのチャンスが溢れていて、柔軟な発想と挑戦意欲があれば、日本を変えるチャンスさえ掴み取ることができるとお話いただき、参加者自身がグローバルアントレプレナーシップの重要性を理解し、新たな一歩を踏み出すきっかけになりました。



5月例会 楽しく学べる食事フェスタ 開催報告

5月11日(土)に名城公園内 tonarino にて5月例会を開催しました。本例会ではフェスティバル形式として、名古屋青年会議所だけでなく、多くの協力団体から子どもの食事の支援について体験しながら学ぶ内容のブースを出展いただきました。支援する側は自分たちにもできる支援があることを学び、親と子どもは様々な取り組みがあることを知り今後利用してもらえるように、企画実施をしました。オープンスペースを活用して多くのパートナーに協力をしたことで、数多くの市民が参加し、特に家族連れの参加者には好意的な意見をもらうことができました。会員と市民を合わせて900名以上の方に参加をしていただき、予想以上の来場者にも関わらず大きな混乱もなく実施できました。出展企業団体からは、活動のPRだけでなく多くの参加者に楽しんでもらえたことで満足感を感じてもらうことができ、本例会に参加をした方には、食格差の現状を知り、身近な企業・団体の支援活動に触れることができました。



6月例会 時代に乗り遅れるな! 「DX」×「カーボンニュートラル」が生み出す!~新しい経済のカタチ~

6月12日(水)、Niterrra 日本特殊陶業市民会館ビレッジホールにて、6月例会 時代に乗り遅れるな! 「DX」×「カーボンニュートラル」が生み出す!~新しい経済のカタチ~ を開催しました。匿名掲示板「2ちゃんねる」開設者の西村博之氏をはじめ4名のゲストにお越しいただき、「DX」や「カーボンニュートラル」の必要性、名古屋の未来の経済について参加者にお伝えしました。本例会は2つの委員会で担当し、主幹委員会のDXというテーマと副主幹委員会のカーボンニュートラルというテーマをどのように1つの例会にしていこうかということが最初の壁になりました。しかし講師や様々な方と打ち合わせや相談を重ねるなかで明確な着地点というものを定めることができました。この2つのテーマを題材とし、専門性の高い講演や対談を通じて、新たな経済活動や名古屋の未来についてそれぞれの専門的な立場からお話をいただくことで、より多くの参加者の意識を変えることができたのではないかと考えます。



7月例会 J-Burning NAGOYA×NINJA GAMAS

7月7日(日)にJR名古屋駅前タワーズガーデン・タワーズテラスにて7月例会『J-Burning NAGOYA×NINJA GAMAS』を開催させていただきました。本例会はフェスティバル形式とし、アーバンスポーツについて「見る」「聞く」「する」の3つのテーマを設定しました。当日はアーバンスポーツアスリートによるショーを開催し、子どもたちも楽しめる体験会を開設し、市民の皆様がアーバンスポーツの魅力を感じていただけるような内容としました。本例会は、アーバンスポーツを名古屋の新しいまちの魅力になるように、まずは市民の皆様がアーバンスポーツについて認知していただくことを目的としました。市民からの反響に関しては、アンケートによると大変ポジティブな結果を収集することができたうえ、多くの方にSNSで広く発信していただくことができました。今回、共催したパートナーが中心となって次年度以降も本例会と同様のイベントの開催が決定しており、この取り組みは続いていく運びとなりました。



8月例会 選挙例会

8月28日(水)、ウィルあいち4階大ホールにて8月例会として2024年度(第74年度)理事候補者選出選挙立会演説会及び投票が実施されました。12名の候補者は選挙期間を通じ、諸先輩や各委員会メンバー、来訪者などとの真剣な対話を行い、自分自身の根幹を見つめ直し、理事としての想いと志を積み重ねてまいりました。立会演説会では、各候補者は導き出した考えを堂々と伝えました。全候補者の演説の後に澤田選挙委員長から講評があり、安井理事長から労いの言葉をいただきました。演説会終了後、すべての会員が清き一票を投じ、約1か月の選挙期間を締めくくりました。この選挙期間は候補者だけでなく、すべての会員が名古屋青年会議所のあるべき姿や、この時代に相応しいリーダー像などについて真剣に考える機会となりました。



9月例会 交流人口を拡大する例会 フォーラム&ブース開催報告

9月23日(月)にエディオン久屋広場にて「交流人口を拡大する例会」を開催しました。

本例会は、フォーラム、ブース、プレ JCI 世界会議の事業と3委員会が同日に合同で実施するという大変規模の大きなものとなりました。例会を一つの会場で実施するにあたり、それぞれの委員会がもつ目的やテーマを融合させ、一体感や親和性をもたせるよう協力しました。当日は、ステージエリアにてプレジャーを推進するフォーラム、ブースエリアにて愛知県の産業が体験できる構成となり、夜間にはプレ JCI 世界会議ジャパンナイトも開催されました。フォーラムでは名古屋の観光に対する新たな切り口としてプレジャーの推進を訴え、ブースではこの地域の特性を活かした「産業観光」をテーマに数多くの企業様にブース出展していただきました。市民と会員はもとより、海外からのゲストや近隣 LOM 会員も数多く参加し、文字通り交流人口を拡大する取り組みに相応しい賑わいを見せました。



10月例会 開催報告

10月15日(火)、オアシス21 銀河の広場にて「10月例会 名古屋人間力大賞～プラスワンスマイル～」を開催しました。本例会はゲストのnobodyknows+の知名度による集客効果とアクセスの良いオープンな会場が市民の参加を促しました。また、会場内に飲食やドローンサッカーといった市民の興味を引きつけるブースを設置したことで、500名を超える市民が参加しました。ステージでは10名のファイナリストがそれぞれプレゼンテーションを行い、表彰式を実施しました。彼らは社会課題解決に向け、日々挑戦している活動内容と未来へのビジョンを熱く語り、会場の皆様から大きな拍手をいただきました。グランプリに、心理学とAIを活用し、企業の人材育成に取り組む伊井俊貴氏が選ばれました。この例会を通じて名古屋人間力大賞の認知度が広がり、社会課題解決に取り組む人材にスポットライトが当たる機会となりました。



11月例会 新しい教育を推進するフォーラム開催報告

11月17日(日)に名古屋市中小企業振興会館にて11月例会を開催しました。本例会では、2委員会の合同開催となり、基調講演ではデジタルデバイスを用いた、コミュニケーション教育や家庭内での活用方法やChat GPT・生成AIの活用方法・インターネットの情報を受信、発信する際の注意点について講演いただきました。この講演では、デジタル社会において、子どもたちがフェイクニュースなどの影響を受けるリスクが高まっている現状を受けて構築されました。また、サブフォーラムでは STEAM 教育を推進する事業の成果報告を行いました。4名の講師によるトークセッションを実施し、STEAM 教育を受けた子どもたちの変化や現場の先生方の感想、今後の取り入れていきたい教育方法についてお伝えいただきました。そしてブースでは子どもたちの創造性や課題発見・解決能力を育める展示を協力企業と共に多数出展しました。2つのテーマを親子が楽しみながら学べる例会となり、当日は400名を超える親子連れでにぎわいました。



12月例会 開催報告

12月2日(月)ヒルトンホテル名古屋にて12月例会を開催しました。第1部の式典の部では、軌跡映像を通して本年度の運動を振り返り、運動の成果を共有いたしました。また、第74代理事長安井琢磨君より1年間の活動報告がなされ、プレジデンシャルリースの伝承を行いました。褒賞の部では優秀な個人及び委員会の表彰を行いました。個人表彰では、最優秀新人賞として渉外委員会の川合翔君、最優秀出向賞として日本語教育支援委員会の本田大三君、MVJとして世界会議誘致実行委員会の深田悠暉君が表彰されました。また委員会表彰の部では、最優秀事業賞として持続可能な経済推進委員会、最優秀例会賞としてグローバルアントレプレナー育成委員会、最優秀拡大賞としてモビリティ社会探求委員会、希望の光賞として社会課題解決人材支援委員会、理事長特別賞として STEAM 教育推進委員会、最優秀委員会賞としてアーバンスポーツ普及委員会が表彰されました。懇親会の部の卒業式では卒業生が登壇し、これまでの JC 生活の思い出を語りました。そして、第74年度副理事長の平岩敏明君から送辞が述べられ、第74年度監事岩下

大高君から答辞が述べられました。卒業生からいただいた想いを受け継ぎ、次年度も希望の光を照らし、夢を描く運動を興してまいります。



2024年度(第74年度) 事業報告

ていきました。そして10月例会人間力大賞に向けて人材を発掘し、選考を重ね、10月例会の成功につなげることができました。



Cross-Border Business Exchange Hub 国境を越えたビジネス拠点を構築する事業

本事業は名古屋青年会議所会員と海外LOM会員のビジネスマッチングを目指して構築されました。参加人数は名古屋青年会議所会員81名とJCIマニラ、JCI九龍、JCIシドニー、JCI東ジャワ、JCIシティ、JCIチェンマイシティの6つのLOMから総勢365名もの方が参加する大規模な事業となりました。名古屋青年会議所会員向けにJICA、JETROの協力で2回のセミナーを実施し、国際ビジネスの魅力を伝えました。また、対面でのビジネスマッチングとオンラインのビジネスマッチングを併用し、10件のマッチングを成功させる成果がありました。言語の違いによるコミュニケーションが取れないことへの不安があった参加者が実際に海外LOMの方と積極的にコミュニケーションを図ることで、言語の壁に対する苦手意識が下がってきたりなど、参加者に国際ビジネスへの障壁を取り払うきっかけとなりました。



GO!GLOBAL! 名古屋から世界で輝くアントレプレナー

当事業は名古屋青年会議所会員が起業を志す者のロールモデルとなり、スタートアップ支援機関、教育機関と有機的につながること、未来のグローバルアントレプレナーを生み出す仕組みをつくることを目的として実施されました。当事業では計6回の事業と16回のファンクションを設けました。事業参加者は、ミナーによって、アントレプレナーシップを知り、事業構築プログラムを受けました。その後、海外渡航し、市場調査と起業家と交流を行い、グローバルアントレプレナーとしての視座を高め、国内視察では徳島県の神山まるごと高専へ赴き、教育プログラムを受講することで、イノベーションのアイデアとなる刺激を得ました。視察で得たことを事業構築ワークショップで具体化し、プレ世界会議で事業案の発表をおこないました。結果として、今回の事業においてアイデアの実現化に参加者や起業家として活動する方を輩出することができました。



デジタルリテラシーを向上させる事業

名古屋のまちにデジタル技術の発達、普及に適応し、競争優位性を確立できる企業を増やすために、デジタルリテラシーを身に着けた経営者を名古屋に増やすことを目的として開催しました。経営者と学生を対象に全4回の事業を行い、3名の講師をお呼びして、日本のDX化の現状から、地元の中小企業のDX化の実例、また最新のデジタル技術についての講義を行い、グループワークを通して自社の課題を共有しあい、お互いの取組みを紹介しあうことで、デジタル技術の実装をする意識を醸成していきました。便利なデジタル技術を導入することで会社の困りごとを解決し、参加者の企業をより良くできる、というポジティブな考えを経営者の方々に伝え、DXがより身近なものであるというように意識変革ができました。



持続可能な経済を推進する事業 一人ひとりの行動で 名古屋をエコであふれるまちへ!

本事業は企業に向けての事業と小学生対象の事業と大きく2つのターゲットを設定して実施いたしました。企業向けの事業としては「カーボンクエストin愛知」の作成協力を企業に依頼し、名古屋市の「登録エコ事業所」に新規登録する企業を広く募りました。「カーボンクエストin愛知」とは子どもたちが遊びながらカーボンニュートラルについて学べるカードゲームです。また、名古屋市内の小学校にて「小学生と学ぶ、家庭で実践できるエコ活!」と題し、講義と「カーボンクエストin愛知」の体験を授業として行いました。子ども達はゲームを楽しんだだけに終わらず、自分たちにはできることを考える姿も見られ、学校関係者からもご好評いただきました。最後に、名古屋市役所内にて、名古屋市環境局、教育委員会、協力企業と事業成果報告会を行い、事業の成果を報告しました。



社会課題に取り組む人材で溢れるまち 名古屋にする事業

本事業は、社会課題解決に取り組む人材の支援として、マネタイズすることで取り組んでいることをソーシャルビジネスに至るまでをサポートする事業と、ソーシャルビジネスに取り組む人材を発掘し、スポットライトを当てる人間力大賞、TOYPエントリー支援の事業を軸に展開してまいりました。事業では多くのソーシャルビジネスを手掛けている栞山氏に講演をいただき、課題を再発見し、バックキャスティングで戦略を練っていく手法などを学び、日本が抱える社会課題の解決に取り組むことが、実は大きなビジネスチャンスであることを再発見できました。またグループワークや事業計画書を作成し、ビジネスプランをブラッシュアップし

プレJCI世界会議2024

本事業はJCI世界会議のイメージを膨らませ、JCI世界会議開催への知識や経験を積み、JCI世界会議開催に積極的に関わる会員を増やすことを目的として9月23日に開催されました。同日は9月例会が開催され、同じ会場でフォーラムとブース出展があり、さらに国際グループの事業のピッチイベントや報告会も同日開催で行われました。世界会議誘致実行委員会ではTIADにて行われたVIPランチョンと久屋大通公園エディオン久屋広場にて行われたジャパンナイトを担当いたしました。VIPランチョンでは近隣LOMのゲストをもてなすに相応しい会場や設えを選定し、そこで河村たかし名古屋市長のご挨拶いただきました。その場で近隣LOMの皆様にも名古屋で世界会議を実施する意義をお伝えすると共に、今までのご協力の御礼とこれからも引き続きのご協力をお伝えする場となりました。また

ジャパンナイトではDJタイムを設け、名古屋青年会議所会員、他LOMの皆様、市民が一体となり盛り上がりを見せました。



アーバンスポーツを普及する事業

本事業はアーバンスポーツの継続的な開催を通じて、名古屋の新しい魅力となり、まちが活性化することを目指して構築されました。本事業は、誰もが手軽に取り組みやすいBaseball5を中心に、小学生に魅力を感じていただけるような内容といたしました。名古屋市スポーツ市民局や名古屋スポーツコミッションに数多く足を運び、その際、2026年にアジア競技大会を控える名古屋市がどのようなスポーツを推進しているかをヒアリングし、他の都市であまり取り組まれていないBaseball5とバドミントンに力を入れていきたいとの意向を聞き取ることができました。また、アーバンスポーツが都会的文化和との親和性の高いことを感じていただくために、名古屋市のシンボルマークである中部電力MIRAI TOWERにてアーバンスポーツ体験会を実施いたしました。これにより、アーバンスポーツの都会的文化和との親和性を感じていただくのと同時に、アーバンスポーツの魅力をより効果的に、かつ、多くの方に発信することができました。



モビリティ社会を探求する事業

本事業はパーソナルモビリティの正しい知識やルールを身につけ、ラストワンマイルの移動をスムーズに行い、利便性が向上し、パーソナルモビリティのもつ可能性を理解すると共にその魅力を伝えるために開催されました。全4回開催され、若宮商業高等学校を中心とした学校と協働して開催しました。参加者は安全講習や敷地内での試乗から始まり、公道での試乗体験を経て、その知見をもって、成果発表を行いました。その後、このモデルケースを名古屋商業高等学校と西陵高等学校への引継ぎを若宮商業高等学校と共にすることで他校などに周知、発信することができました。また、事業の成果を提言書として名古屋市スポーツ市民局地域安全推進課に提出しました。



JCカップU11少年少女サッカー アジアパシフィック大会

本事業は参加する子ども及び来場された市民が、国籍・人種・言語を超えて友情を育み、スポーツという言葉によらないコミュニケーションツールを通じてお互いを深く理解し、グローバルな視野を養う国際交流の機会をきっかけに、事業後も継続して国際交流への意欲を高めることを目的として開催されました。昨年に引き続き、第2回アジアパシフィック大会として日本青年会議所と共同主催という形で開催しました。日本、タイ、台湾、香港、韓国、マカオ、フィリピン、オーストラリアの8か国から16チームが参加し、250名を超える参加があり、大規模な事業となりました。10月18日(金)から始まり、10月20日(日)までの3日間に予選、決勝はもとより、開会式や閉会式の行事やサッカースクールやエクスカージョン、懇親会もご用意させていただきました。この事業は規模も大きく、時間も長いことから国際スポーツ交流推進委員会だけではなく、全委員会に協力していただいて設営しました。



3G-Project

当事業は名古屋の高校生を対象に、社会課題を通して国際的な交流を行うことで、未来を担うグローバルリーダーとなれるよう、国際交流プログラムを中心に海外渡航や語学学習、パブリックスピーキングを行いました。私たちが目指したのは、彼らが自信をもって自己表現し、多様性を受け入れ、日本人としての誇りを持ち、リーダーシップを発揮する力を養うことです。特にClosing meetingでは、学校関係者や保護者を呼び、スピーチを保護者、学校関係者に見ていただけたことにより、3G-projectの認知度を高め、次年度も協力してくれる関係性をつくりました。姉妹LOMのJCI九龍理事長にも参加していただき、Zoomを活用してマニラやシドニーの学生たちや、JCIマニラの常任理事やJCI台北女子の副理事長も参加していただき、多くの国の学生とJC会員が参加する事業となりました。



みんなで考えよう「デジタルの道しるべ」

本事業は、中学生を対象としてインターネット上に多くの偽誤情報があることを知り、一度立ち止まり考えることで情報の真偽を判断できるようにすることを目的として開催されました。授業内容を専門学校生と共に構築するスタートアップ研修から始まり、全9回の出前授業の実施を通じて、1,000名を超える参加者に授業を聞いていただくことができました。アンケート結果から1,062名の中学生のうち91.8%の学生が「今後もデジタル・シティズンシップの授業を受けたい」との回答があり、好評でした。これらの成果を実施した学校や教育委員会にも共有し、今回関わっていただいた専門家の方と教育委員会をつないだことで、このデジタル・シティズンシップの授業は継続することが決定しました。



子どもの食生活を向上させる事業

本事業は、子どもたちが自身の環境に関わらず食格差が生まれないまちづくりを目的として実施しました。事業内容を大きく2つに分けて実施しました。1つ目は、名古屋市と協定を結んだ「子どもごめし」の仕組みを実施する店舗を増やし、子どもやその親に認知と利用を広めることです。多くの飲食店舗からは共感をいただくことができました。社会貢献に興味はあるが、時間や金銭的な負担から実行できない声が多く聞きました。子ども食堂の運営以外にもできることがあると知り、支援者として巻き込めることができました。2つ目は、子どもたちが朝ごはんを食べることができる場を実験的に設けました。子どもたちは友達と食べることや外で食べることを楽しみにしていました。当事業は子どもと食事という、幅広く多くの支援者を巻きこめるテーマで、多くのパートナーと運動を実施できました。



日本語教育を支援する事業

当事業は、外国にルーツをもつ子どもたちが日本語を学べる環境を空白なく整備するという方針のもと始動しました。構築段階で名古屋市教育委員会が運営している日本語初期集中教室や地域でボランティアが運営している日本語教室等に出向き、外国にルーツをもつ人たちのために運営されている様々な人たちと意見を交換し、持続可能な運営を目指す方向性は正しいという確信を得ました。日本語教室を合計21回実施し、森の里ふれあい秋祭りや緑区区民まつりにてブース出展を実施しました。本事業を通じて、緑区の森の里団地という外国にルーツをもつ子どもたちが多い地域に継続開催される日本語教室をつくることができました。外国人の定住化が進むこの名古屋で、外国人が日本人と触れ合う環境は必要とされており、私たちの手で地域に子どもたちの「居場所」をつくることができました。



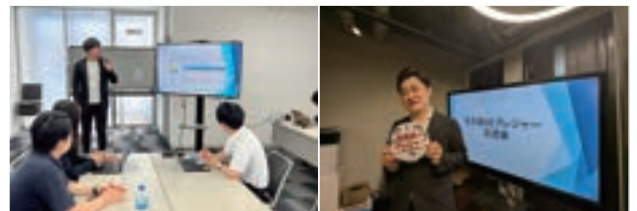
It's cool! from NAGOYA

名古屋を起点としたこの地域を、まち独自の魅力と産業観光コンテンツを求めて人々が集まるようになり、活気に満ちたまちにすることを目的として、新たな観光資源としての産業観光開発に取り組みました。地域固有の文化の醸造蔵を軸に据え、訪問者が実際に体験できるコンテンツを開発し、観光客の周遊を促進する施策を開発しました。発酵醸造業は世界的に注目されていて、産業観光における「発酵ツーリズム」は、この地域に相応しいテーマだと考えます。体験型コンテンツの開発を学生と共に、開発したコンテンツを国際アカデミーやわんぱく相撲区長杯などの機会に出展PRしました。また、御蔵印帳の作成・運用を行い、これらを新たな産業観光コンテンツ「It's蔵」ツアーとして醸造蔵・旅行会社と共にパッケージ化し、今後もこのツアーは継続していくものとなりました。当事業を通して「発酵ツーリズム」に取り組もうとする企業が増え、愛知県味噌醤油工業協同組合と八丁味噌との連携が実現したことは今後のこの地域の交流人口が拡大していく一助になったと確信しています。



「名古屋DEブレッジャー」推進計画！ ブレッジャー推進都市NAGOYA

この事業を推進するにあたり、まずはブレッジャーという新たな観光形態を認知していただくところから始まりました。ブレッジャーとはビジネスとレジャーを掛け合わせた造語で、出張などのビジネス目的での訪問客にレジャーを楽しんでいただくという観光スタイルになります。本事業は、ステッカーとクーポンを活用して名駅エリアを中心に配布し、認知度の向上を図る活動を行いました。パートナーであるセンスサウナ様と協働し、名駅3丁目エリアを中心に地域でブレッジャーという観光形態の認知を高めていきました。次年度以降はセンスサウナ様と広告媒体が協力して名駅1丁目から3丁目まで400店を超える事業者様に地域一丸となって継続して活動していただくきっかけをつくることができました。今回の事業を通じて、参加していただいた方々に「ブレッジャー」という言葉の意味やその魅力、価値について広く認識していただけたことは、大きな成果であったと感じております。



Create your FUTURE! ワクワクと自信で答えを導く新たな学習スタイル

教育現場において自己受容力を高め、課題発見解決能力と創造的思考力を身につけることで、日本の将来に希望をもち、自ら将来を切り開く人材が増えることをビジョンに置き、STEAM教育という手法をもって課題を解決するために実施しました。カリキュラムの作成から始まり、名古屋市内の2校に計6回の授業を実施しました。実際に事業を実施すると学生は目を輝かせ、積極的に授業に参加していただくことができ、アンケート結果では80%以上の学生がカリキュラム満足をしていただくことができ、85%以上の学生がSTEAM教育を取り入れるべきという回答があり、この成果報告を名古屋市教育委員会に共有し、名古屋市教育委員会が運営するプラットフォーム「キャリアタイムサポーター」にてカリキュラムを継続的に共有できる成果を上げることができました。



JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL NAGOYA 2024

賛助・協賛企業の募集について

■賛助・協賛について

名古屋青年会議所は、名古屋のまちを想い、活動を続けて、今年で74年目を迎えました。今後、より一層まちや市民の皆様から求められる運動を展開していくためには、単独の活動ではなく、多くの方々から共感を得て、共に活動していくことが大切であると考えています。

そこで、当青年会議所では社会課題の解決に向けて、あらゆるパートナーと連携し、新たな価値、すなわち持続可能なブランドや事業を創造していく取り組みを行っています。青年会議所運動にご賛同いただける企業・団体・個人の方には賛助として、それぞれの事業・例会にご賛同いただける方には協賛としてご支援いただき、協働して運動を展開しています。

賛助いただける利点として、当青年会議所は、600名近い青年経済人である会員から形成されており、経営者層の人間も多く在籍しておりますが、その会員に対して、貴社の活動内容や特色をアピールする機会を設けさせていただきます。また、我々は、地域との協働により、明るい豊かな社会の実現するために活動しております。

広報誌やWEBの活用により、貴社を賛助企業としてPRすることで、より一層のイメージアップを図ることができます。

■協賛によってなされた事業

昨年度、当会議所は、複数の事業・例会を、外部企業・団体等の協賛金に支えられて実施しました。

例えば、名古屋の魅力を発信する例会～名古屋の魅力!ポップカルチャー花火フェス～では外部の協賛を多数いただいたおかげをもって、久屋大通公園の南エリア(エディオン広場、エンゼル広場)にて名古屋で初となる、都市型花火を開催し、100,000名を超える参加者の動員を達成しました。

また、公益社団法人日本青年会議所と連携し、JCカップU11少年少女サッカーアジアパシフィック大会では8か国から参加があり、同日に開催された名古屋の国際化を推進する例会では2日間の合計で約35,000名の参加がありました。こちらの例会についても外部企業・団体等の協賛金に支えられて実施できたものになります。

■賛助・協賛の方法

2024年度(第74年度)では、当青年会議所の目的に賛同し、その活動を援助することによって当青年会議所の発展を助成しようとする企業・団体に対し、ご要望に応じた賛助プランをご用意しています。また、各事業・例会に対してご協賛いただく場合には、担当委員会と共にその内容を定めていただくこととなります。詳細につきましては、名古屋青年会議所事務局を通して、広報委員会までお問合せください。

お問い合わせ先 公益社団法人名古屋青年会議所
2024年度(第74年度)広報委員会
メールアドレス: nagoyajc74kouho@gmail.com

マズモッテ定期送付ご希望の方へ

携帯・スマートフォン・パソコンからお申し込み

①QRコードを読み取って下さい→



②「マズモッテ定期送付依頼フォーム」から必要事項をご入力下さい。

※QRコードでなく、直接ご入力の際は下記アドレスをご入力下さい。
https://www.nagoyajc.or.jp/68nendo/about/mazmotte/main_form.php
※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に従い取り扱います。
※公益社団法人名古屋青年会議所に関する情報提供以外の目的では利用いたしません。
※アクセスにはご契約の通信料がかかります。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

名古屋の魅力を発信する情報をゲット!

名古屋青年会議所のホームページやSNSでも情報を発信中!

公式YouTube
チャンネル



公式Facebook



公式Instagram



NAGOYA.JC

公式X(旧Twitter)



公式LINE

